

中央区内景气动向调查

令和4年10月调查结果

令和4年11月30日

中央区

総 括

令和4年10月の動き

中央区内における10月の現状判断D Iは合計で59.5と、前回調査から12.8ポイント上昇している。景気の先行き判断D Iは合計で58.3と、前回調査から8.9ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和4年			前回調査 からの変化
	6月	8月	10月	
合計				
現状判断D I	58.9	46.7	59.5	(12.8)
先行き判断D I	53.3	49.4	58.3	(8.9)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、令和4年10月調査の調査票発送は10月7日（金）、回答期限は10月19日（水）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は42名、有効回答率は84.0%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断D Iは合計で59.5と、前回調査から12.8ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは69.1と、前回調査から24.1ポイント上昇し、企業動向関連D Iは53.0と、前回調査から5.0ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が27.4ポイント増加し、「やや悪くなっている」と回答した人の割合が14.4ポイント減少した。

図表1 - 1 各分野における景気の現状判断D Iの推移表

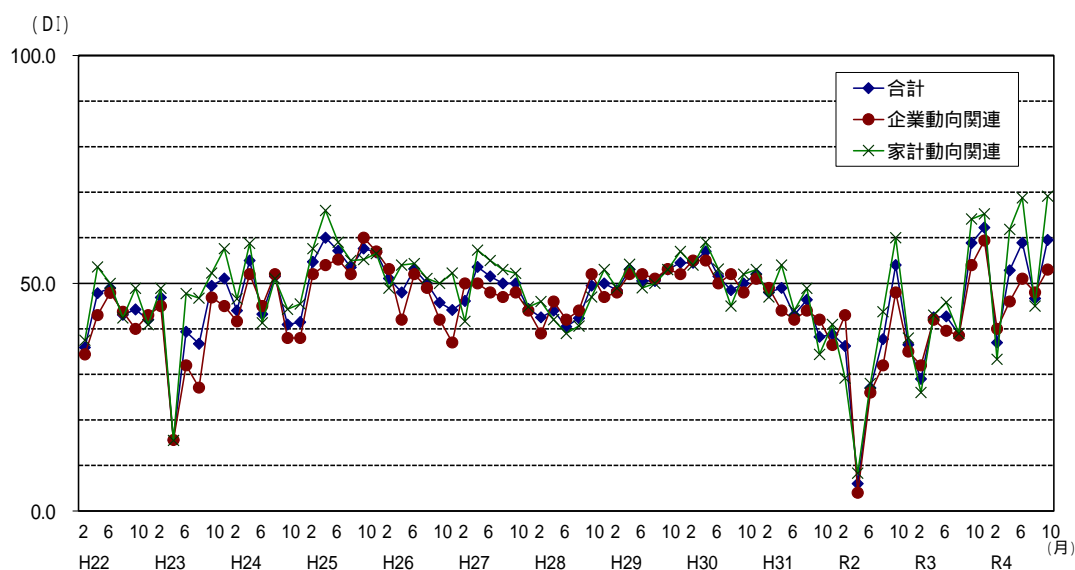
(D I)	令和4年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	58.9	46.7	59.5	(12.8)
家計動向関連	68.8	45.0	69.1	(24.1)
小売関連	66.7	41.7	65.0	(23.3)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	68.8	56.3	75.0	(18.7)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	51.0	48.0	53.0	(5.0)
製造業	35.0	45.0	60.0	(15.0)
非製造業	55.0	48.8	51.3	(2.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1 - 2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
令和4年	6	8.9%	42.2%	26.7%	20.0%	2.2%
	8	4.4%	17.8%	42.2%	31.1%	4.4%
	10	4.8%	45.2%	33.3%	16.7%	0.0%
(変化幅)		(0.4)	(27.4)	(-8.9)	(-14.4)	(-4.4)

図表1 - 3 各分野における景気の現状判断D Iの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で58.3と、前回調査から8.9ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは67.6と、前回調査から15.1ポイント上昇し、企業動向関連DIは52.0と、前回調査から5.0ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が16.8ポイント減少し、「やや良くなる」と回答した人の割合が14.0ポイント増加した。

図表2 - 1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

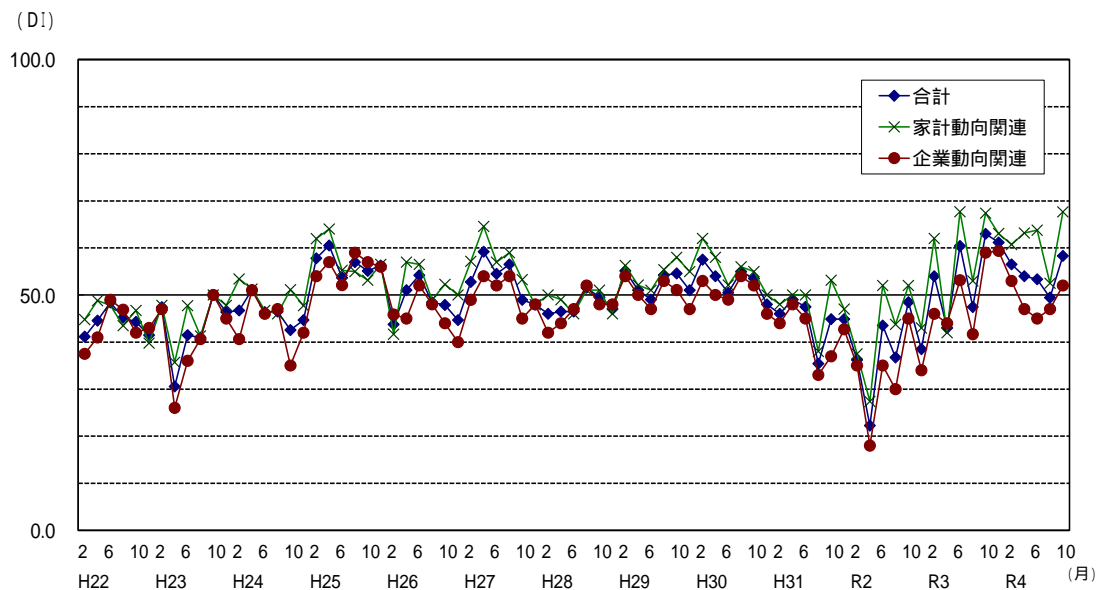
(DI)	令和4年			
	6月	8月	10月	(変化幅)
合計	53.3	49.4	58.3	(8.9)
家計動向関連	63.8	52.5	67.6	(15.1)
小売関連	54.2	43.8	67.5	(23.7)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	81.3	62.5	66.7	(4.2)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	45.0	47.0	52.0	(5.0)
製造業	50.0	50.0	50.0	(0.0)
非製造業	43.8	46.3	52.5	(6.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和4年	6	11.1%	24.4%	33.3%	28.9%	2.2%
	8	2.2%	28.9%	35.6%	31.1%	2.2%
	10	2.4%	42.9%	40.5%	14.3%	0.0%
(変化幅)		(0.2)	(14.0)	(4.9)	(-16.8)	(-2.2)

図表2 - 3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

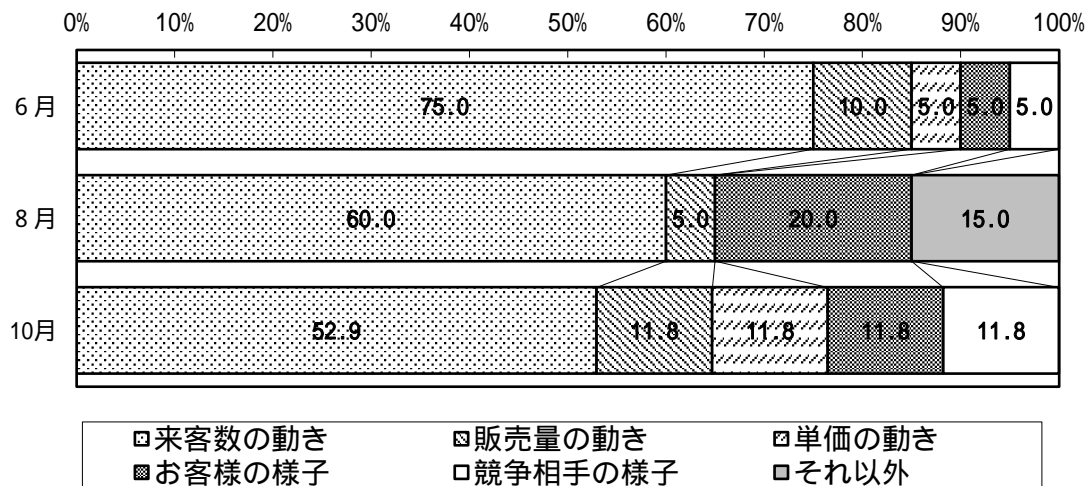
(D I)	令和4年		
	6月	8月	10月
合計	58.3	44.4	55.4
家計動向関連	65.0	41.3	66.2
小売関連	64.6	41.7	62.5
飲食関連	-	-	-
サービス関連	62.5	43.8	66.7
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	53.0	47.0	48.0
製造業	45.0	40.0	40.0
非製造業	55.0	48.8	50.0

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

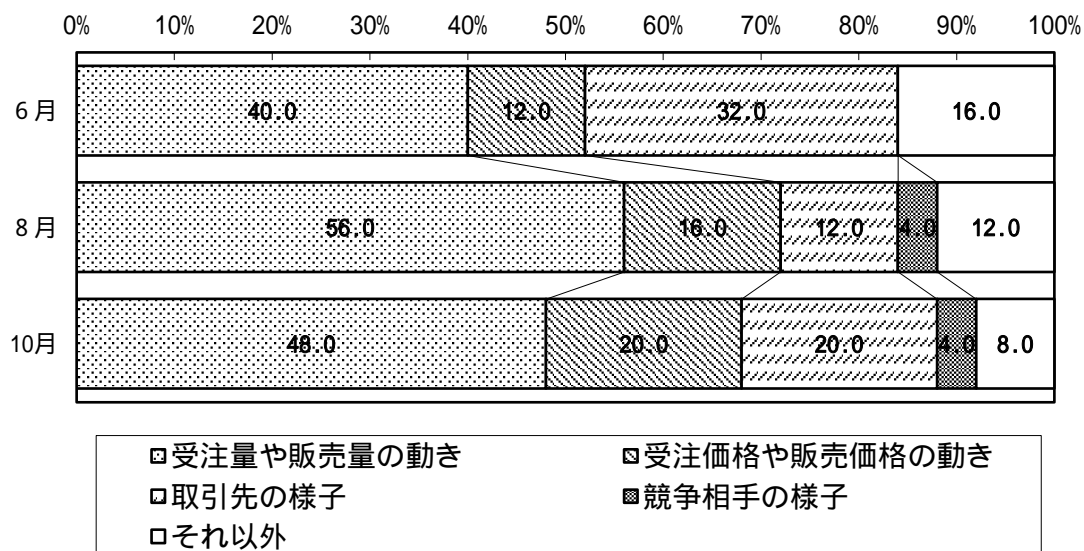
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の状態に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の状態に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	百貨店（総務担当）	来客数の動き	・円安を背景に、海外からの観光客の入国制限緩和も加わり、インバウンド売上の大幅な増加が見込める。
	やや良くなっている	一般小売店〔文具〕（販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、インバウンド客、日本人客共に増加している。
		百貨店（総務経理担当）	競争相手の様子	・9月以降、リモートワークから入社となった会社も増えたと聞いている。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・富裕層の消費の活発さは衰えていない。さらに、今後新型コロナウイルス感染症が収束に向かえば、その他の客層の消費意欲も段階的に上がってくる。消費二極化のアップー部分の受け皿として機能している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・来客数は前年比134%となり、3か月前の120%よりも伸びている。外国人観光客が増加しており、円安の影響もあるのか、単価が大幅に上昇している。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、企業も制限を緩和しており、予約が増加してきている。
		高級レストラン（副店長）	単価の動き	・予約のコース単価が一時に比べて上がっている。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・週末は8～9割の客が戻ってきている。ウィークデーはまだ5割くらいしか客が戻ってきていない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・まだ天候が安定していないが、少しずつ秋の気配が近づき、人の動きが活発になってきている。
		都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・来客数は若干増えている。客室料金はいまだに戻っていない。
	変わらない	スーパー（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せており、現段階では現状維持と予測している。
		旅行代理店（店長）	単価の動き	・全国旅行支援の開始に伴い来客数は増えているものの、単価が低い。また、低価格な商材が売れている。一方で、そのような施策を使わずとも高額富裕層は一定数動いており、二極化している。
	やや悪くなっている	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・前年も大分減少していたが、今年は更に20%程度減少している。相変わらずオフィス人口が減少しているように感じる。また、商材の欠品も多く、ニーズにこたえられないケースも多い。
		一般小売店〔食品〕（店長）	来客数の動き	・物価高が続くなかで、客も毎日財布と相談しながら店を選んでいるに違いなく、テレワークも合わせて来客数の動きに関係する。
悪くなっている	-	-	-	-
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	出版業（経営者）	それ以外	・コロナ下の落ち込みからV字回復傾向にある。ただし、円安などに起因するコスト増に悩まされている。
		印刷業・製本業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・今は公の景気対策による資金で何とか動いているが、それも限界がある。民が主導になって始めて本来の景気回復になるので、注視したい。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・インバウンド申込みが増えている。
		不動産業（企画担当）	競争相手の様子	・大型商業施設のグランドオープンが近づいており、周辺エリアでの大企業転入の情報が聞こえている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・週末は商店街も大分にぎわってきている。もんじゃ焼き屋はどの店舗でも入店待ちの客ができるまで回復している。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格の動きを3か月前と比較すると、15%弱上昇している。
	変わらない	新聞業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症の勢いが弱まったことに加え、国や東京都の旅行支援策が出たことで急激に勢いづいてきている取引先と、円安、エネルギー価格、物価高に苦しむ取引先とはっきり分かれている。
出版業（営業担当）		受注価格や販売価格の動き	・販売量は減っているが、価格を上げているため、売上は変わらない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・前年同月と比べても、受注量の動きは変わらない。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・新型コロナウイルス感染症に慣れ、どの企業も工夫しながら営業しているように見受けられるが、決して業績が良いわけではなく、耐えているといった様子である。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・特別に景気に影響するような変化はないので、このまま低水準で維持していくものとみている。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注残、販売量に大きな動きは見当たらない。受注量は例年どおり、もしくはやや少ない状況である。
	やや悪くなっている	建設業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・低価格入札があり、受注金額に大差が出ている。
	やや悪くなっている	建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・円安やガソリン価格上昇により、建築資材も高騰しており、発注者の予算とかけ離れてきている。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計動向 関連	良くなる	百貨店（総務担当）	・依然として円安が続いており、海外へ出国するハードルが高いため、国内客の買上を期待できる。	
	やや良くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・規制緩和によるインバウンド増加に期待している。	
		一般小売店〔文具〕（販売担当）	・10月からの入国制限緩和により、外国人観光客の増加が見込まれる。円安によるインバウンドのメリットは商売としては追い風になる。	
		百貨店（総務経理担当）	・個人の訪日外国人客の入国解禁と全国旅行支援による。	
		百貨店（広報担当）	・下半期は、クリスマスや年末年始などスペシャルオケージョンがあり、人と会う機会が増える。現状、新型コロナウイルス感染症以外で業績に大きな下振れインパクトを与える要素は見当たらない。	
		衣料品専門店（店長）	・外出機会が増えている。	
		高級レストラン（経営者）	・味覚のシーズンに入り、予約件数も増えてきている。年末の忘年会に向けて、これまでのマイナスを取り戻すべく頑張りたい。	
		高級レストラン（副店長）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向のまま推移すれば、12～1月の宴会も増えてくると予想している。	
		一般レストラン（経営者）	・政府の方針もあり、集会、祭り等の制限が緩和されており、また、インバウンド客も少しずつ増えてきている。これに加えて、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していけば、かなり期待できる。	
		都市型ホテル（経営者）	・コロナ禍は少し収まったものの、テレワーク等によりワークスタイルが変わったため、ビジネス客が減っている。あとは観光に期待している。	
		都市型ホテル（営業担当）	・国の全国旅行支援や東京都の旅行支援策に加えて、Go To Eatが再開される。	
	変わらない	一般小売店〔食品〕（店長）	・10月からの更なる値上げラッシュで財布のひもは固くなる一方で、良くなる要素がない。	
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症が現状のまま落ち着いていることが前提である。感染状況に変化があれば、それに伴って変わってくる。	
		一般レストラン（経営者）	・やや良くなっていると思うが、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかまだ分からないので、変わらない。	
		旅行代理店（店長）	・経済が停滞している。冬のボーナスがどうなるのかにもよる。	
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・人が動くことで新型コロナウイルスの新規感染者数が増加したり、インフルエンザの流行が起きると、人の集まりが少なくなり、販売量が落ちるのではないかと。	
	悪くなる	－	－	
	企業動向 関連	良くなる	－	－
		やや良くなる	新聞業（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症、円安、ロシアのウクライナ侵攻、エネルギー価格上昇、物価高などの要因は長引きそうで解決が難しいが、全国旅行支援等で短期的には持ち直すとみている。
建設業（経営者）			・新型コロナウイルス感染症が少し沈静化し、世の中全体で徐々に動きが活発になってきている。	
不動産業（企画担当）			・オフィス・マンション共に引き合いは堅調である。	
卸売業〔飲食品（鮮魚）〕（経営者）			・インバウンドが増加してくる。	
卸売業〔機械器具〕（営業担当）			・年末に向けて受注が増える見込みである。	
経営コンサルタント			・支援金などもあり、客が今まで以上に活発に動き出す。インフレで生活用品の動きは鈍いが、旅行、食事会が増加したり、インバウンドが活発化する。	
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）		・現在のところ、年末年始に大きな受注がある。		
変わらない	出版業（経営者）	・コロナ下からの脱却というプラス要因と、円安による材料費などの高騰というマイナス要因とがどう折り合っていくかを注視する。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		出版業（営業担当）	・円安傾向が続いており、これが今後どのような影響を及ぼすのか不透明である。
		印刷業・製本業（営業担当）	・良くなるかもしれないし、悪くなるかもしれない。正直分からない。国内だけでなく、国際的なこともかかわる問題である。為替相場にも左右され、それが不安をあおり、どう転ぶか見当がつかない。
		建設業（営業担当）	・物価高により、資材他に影響が出ている。入札価格は変わらない。
		輸送業（従業員）	・受注量に変化がない。
		通信業（営業担当）	・円安もあり、先が見えない。
		通信業（営業担当）	・変わらないか、やや悪くなる。半導体不足の影響がまだ続いていることに加え、当社では12月に値上げを行うため、バックギアに入ると想定している。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・訪日外国人についての入国制限緩和にみられるように、新型コロナウイルス感染症による影響についてはひとまず一定程度落ち着いており、この部分はプラス要素とみて良い。一方で、これだけの円安水準においても貿易収支が赤字に振れるということは、「生産の国内回帰」が言われつつも、もはや輸出国の経済構造にはないと思われることから、現状の地政学的リスクを考えれば、景気を持ち上げる要素が思い当たらず、やはり当面はこう着状態が継続する。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・先行きが見通せない。国や東京都の旅行支援策が起爆剤になることを期待している。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・得意先からは、このまま低水準で持続していただろうとの話がある。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・受注や売上は計画どおりに進捗する見通しであるが、足元のコストが上昇傾向にあり、収益が悪化している。今後の改善策にもよるが、楽観視できない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・予算上の推移として、余り変化がない状態がここ1～2か月続いており、業種的に大きな変化が起こるとは考えにくい。
やや悪くなる	建設業（営業担当）	・受注が伸びていない。	
	建設業（経営者）	・物価高で発注者側の予算とかなり差が出てきている。新型コロナウイルス感染症は落ち着いてきたが、円安、物価高となり、建設業界の冬の時代が来る。	
	金融業〔証券〕（営業担当）	・ロシアのウクライナ侵攻を受けて、エネルギー価格の高騰が長引いている。その影響で物価も上昇しており、中央銀行の金融引き締めが行われている。	
悪くなる	—	—	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0